



学会ホームページ <http://jasce.jp>

079号(2025年1月31日)

目次

年頭のご挨拶

次期大会開催地からのご挨拶

学会役員選挙について

『協同と教育』への投稿募集中

第12回オンライン講座を開催しました

第13回オンライン講座「日本の協同学習」のご案内

学会ワークショップ 今後の予定(判明分)

各地の研究会・勉強会

年頭のご挨拶

あけましておめでとうございます。会員の皆様には健やかに新春をお迎えのことと存じます。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

昨年10月26日(土)・27日(日)に中村学園大学(福岡市)にて第20回大会を開催しました。ご尽力頂いた野上俊一理事をはじめ、大会実行委員会の皆様に、改めて厚く御礼申し上げます。素敵な環境をご用意頂き、暖かいホスピタリティのもと、節目にふさわしい充実した大会を実現してくださいました。

今秋9月13日(土)・14日(日)に

は名城大学(沖縄県名護市)にて第21回大会を開催します。人間健康学部の平上久美子先生が大会実行委員長を務めてくださいます。沖縄では特に看護教育の分野で本学会に多大な貢献をして頂いています。大会実行委員会には名城大学、浦添看護学校ならびに北部看護学校の先生方にもご協力頂いています。何卒よろしくお願い申し上げます。なお、例年より1ヶ月以上早い大会開催ですので、参加申込、発表申込や発表要旨集録の提出期限が早まります。詳細は追ってご案内します。くれぐれもご留意ください。多くの皆様のご参加とご発表をお待ちしております。

昨年、『協同教育実践論文集』に係る規程を定めました。これは本学会機関誌『協同と教育』の「研究論文」や「実践研究論文」とは異なり、会員の皆様の豊かな実践を「実践論文」として誌上再現し、ご紹介頂くとするものです。協同教育を掲げるものであれば個人の実践でも学校全体の取組でも構いません。実践の全容を丹念に記述し、その意義と価値を解釈・考察した論文をお寄せください。『協同教育実践論文

集』には、その緻密な記録性並びに汎用性によって、読者に新たな実践を喚起し解発させようとする目論見があります。学会HPの「論文投稿・投稿規程(<https://jasce.jp/1091format.php>)」に、「『協同と教育』並びに『協同教育実践論文集』の投稿区分に関する申合せ」を掲載し、「研究論文・実践研究論文」と「実践論文」の違いを整理しています。皆様の投稿をお待ちしています。

さて、昨年12月25日、中教審において学習指導要領改訂に向けた諮問が行われました。今後2～3年の間に「審議まとめ・答申」があり、「周知徹底」と「移行期間」を経た後、2030年度以降に小中高で順次全面実施となる見通しです。次代の教育では、急速に発展する生成AIとデジタル技術の影響を無視できません。優良なコンテンツに独りで接続し、オンラインやオンデマンドで学べてしまう時代だからこそ、同じ時間と空間を共有して学ぶ意義と価値を再発見・再定義・再創造する必要があります。そのためには、揃いの規範によって習熟と復元を強いるありかたをやめなければなり

JASCE

ません。もちろん「習得」は必要ですが、「活用」と「探究」を学習の基底に置き、「自ら学び取る」と「助け合い、支え合い、高め合いながら学ぶ」ことが「手ごたえという意欲」に繋がる必要があります。学ぶことの楽しさや嬉しさや感動は、「できた／わかった／より良く変わった」という個人に閉じた達成感だけでなく、解決しきれない課題を誰かとともに抱え続け、乗り越え、高め合うことにもあるはずです。その過程を導き支える教育的負荷とは何か、そのありかたを見出すことが必要です。

学校は民主的で公正な社会を実現する基盤です。また学校は社会の分断や格差の拡大を防ぐ最前線に位置しています。さらに学校は、事実に基づく知識の習得から概念的な理解へと導き、自ら価値判断し意志決定できる「学習する主体」を育てる場であるとともに、多様な他者とのかかわりを通して、個々の可能性と創造性を開くための、包摂的で柔軟な実践が展開する場でもあります。このような場所、つまり学校や教室の安心・安全な風土は、そこに集う学習者たちの努力やかかわりと教師の配慮とによって、自ら創り出すものです。誰かがお膳立てしてくれるものではないのです。このことを問い続けている本学会の意義と役割は、今回の改訂においても、ますます大きなものとなるでしょう。

本年は役員改選の年でもあります。第18回大会(2022年10月/オ

ンライン開催)の総会後に第7期の会長を拝命し、早くも2年半が経ちました。残る任期はわずかですが、今後の本会のありかたを役員の皆様と議論し、次期体制に繋いで行く所存です。会員の皆様のご協力をお願い致します。

本年も皆様の実践ならびに研究のご発展をお祈り申し上げます。

2025年1月吉日

日本協同教育学会 会長 高旗浩志

次期大会開催地からのご挨拶

今年の第21回大会は9月13日(土)14日(日)に名桜大学(沖縄県名護市)で開催いたします。

名桜大学の建学の理念は「平和」「自由」「進歩」です。沖縄県で初めての日本協同教育学会大会が、本学で開催されることは大変嬉しく、皆様には感謝でいっぱいです。

懐深いやんばるの地に包まれながら、多様な参加者が共鳴しあい、楽しみながら対話する中で、未来の教育(学び合う場)を創造・想像するような大会になるといいなとワクワクしながら目下準備中です。

世界に散見される、こころを傷めるさまざまな状況に、協同は意味を強くし、浸透が求められます。多くのみなさまの協同実践・研究をお持ち寄りいただきたいと思っております。素敵な大会を一緒につくっていただけますように、ぜひぜひお誘い合わせでご参加ください。両手を広げてお待ちしております！

まくとうそーけー、なんくるないさ〜。

第21回大会実行委員会 平上久美子

学会役員選挙について

2025年度は、学会役員3年の任期が満了することに伴い、役員選挙を実施します。4月上旬に投票期間を設けて、まずは得票上位15名の理事を選出する予定です。投票は2024年度会費納入済みの個人会員に限られますので、お済みでない方は2025年2月末までに納入してください。投票の方法については、3月上旬に会誌発送先として登録されている住所に郵送します。

『協同と教育』への投稿募集中

『協同と教育』への投稿を随時受け付けています。投稿受理から査読を経て採択が決定されるまでに通常数ヶ月以上を要します。みなさまの積極的な投稿をお待ちしております。

第12回オンライン講座を開催しました

2024年12月14日(土)に第12回「オンライン講座」を開催しました。参加者は会員22名と一般3名の25名でした。

今回は、「日本の協同学習(日本協同教育学会編、ナカニシヤ出版)」の「第9章 看図アプローチと協同学習」を執筆された北海道教育大学名誉教授の鹿内信善先生を講師と

JASCE

してお招きしてご講演いただきました。まず看図アプローチ協同学習の基本的な考え方についてのミニレクチャーがあり、その後、複数のビジュアルテキストを協同的に読む活動をグループや全体で行いました。ビジュアルテキストの読み取りをチャットやグループ内で共有し、読み取りのズレから思考を深めたり、発問の仕方によって読み取り方が変わること気づいたりなど体験を通して理解を深める学習機会となりました。参加者からは、「参加者として、とてもワクワク楽しく学ばせていただくことができ、看図アプローチの威力を実感しました」、「看図アプローチのイラストから次どうなるのかなというワクワク感が学生を引き込むのに大事だと実感しました」、「看図アプローチの外挿で発問したり発問されて思考する際に、ついつい行き着く問題点を考えさせたり考えがちでしたが、鹿内先生が

言われた「近未来」を考えるとという視点にハッとさせられ、何事も遠近で思考する大切さを再認識できました」などの感想が寄せられました。

(研修委員会)

第13回オンライン講座「日本の協同学習」のご案内

3月1日(土) 14時から、第13回オンライン講座「日本の協同学習」を開催いたします。この講座は、学会設立15周年を記念して会員の皆さまに配本した『日本の協同学習』(2019、ナカニシヤ出版)をテキストとして1章ずつ学ぶものです。2021年6月から始まったオンライン講座は今回が最終回です。

第13回は名誉会員である伏野久美子先生を講師としてお迎えし、第10章「英語教育と協同学習」のご講話とご講話に基づく参加者間の交流を予定しています。学会ホーム

ページから参加の申し込みをされた方にZoomのアドレスを送付いたします。テキストをご準備いただければ、未会員の皆様の参加も大歓迎です。参加費は無料です。皆さまのご参加をお待ちしております。

(研修委員会)

各地の研究会・勉強会

(愛知地域)

協同学習を用いた看護教育研究会

私たちは、緒方巧先生が代表を務める「協同学習を用いた看護教育研究会」から派生して、「協同学習を用いた看護教育研究会 in Aichi」を立ち上げました。愛知の研究会では、皆さんと共に語り合い・学び合うことにより協同の精神を育み、協同学習への理解を深めていきたいと考えております。協同学習の技法を体験的に学び、日々の教育活動へのヒントにつながればと考えております。

◇第1回は、2024年6月15日(土)に開催しました。『日本の協同学習』第1章(ナカニシヤ出版)を読み合わせ、「協同学習とは」「協同学習を取り入れる効果」について皆さんと意見交換をしました。この中で、協同学習の原理についてもっと深く学びたい!と感じました。そのため、ご縁のありました東海学園大学教授(日本協同教育学会副会長)の水野正朗先生にご相談させていただきました、

学会ワークショップ 今後の予定 (判明分)

<ベーシック>

3月22日(土)、23日(日)【主催】 申し込み受付中
会場：和洋学園九段スカイビル(東京都千代田区)
講師：佐瀬竜一・伏野久美子

<アドバンス>

3月8日(土)、9日(日)【主催】 申し込み受付中
会場：創価大学(東京都八王子市)
講師：水野正朗・関田一彦

最新情報、詳細情報、参加のお申し込みは学会HP (<https://jasce.jp/1031workshop.php>)からお願いいたします。

JASCE

第1回、参加者は10名でした。



原理について体験的に学べるように、2回に分けて研究会を開催していただくことになりました。

◇第2回のテーマは「協同学習を支える『原理』と『方法』について」として、2024年11月16日(土)愛知県立総合看護専門学校にて開催しました。

前半は、基本的な協同学習の活動を体験的に理解することを目的に、「授業開きにアイスブレイクを導入しましょう!」を実践していただきました。その時間を重ねる中で、知らず知らずのうちに笑顔があふれ、初対面の方とは思えないほどに皆が打ち解けていく体験を共有できました。共に学び合う雰囲気が作れるように、授業開きには時間をかけて進めることで、チームビルディングができると実感できました。

第2回、参加者は19名でした。



後半は、競争と協定の課題をそれぞれ体験して、グループで説明し合うことで、意見の違う他者を認めることや他者との対話を通して学習が深まることを共有しました。さらに、協定する中で自信や安心も育まれ、心理的安全性につながると感じました。また、「生きた知識」として活用していけるように、使う場面をイメージして少し違った場面で繰り返し経験していくことや、失敗も大切なことであることを伝えていくこと、失敗できる環境を準備することも必要であるとわかりました。

今回は、看護教員だけでなく、臨床現場で働く看護師の方の参加もあり、学校と現場の教育を継続していくことの重要性や看護は協定の精神が備わっていくとよいということも、互いに話せる有意義な時間にもなりました。

終了後は、懇親会(浜木綿)に、11名の方が参加してくださり、楽しい語りあいができました。その後のアンケートからは、楽しく学びことができ時間が過ぎるのがあっという間であった、それぞれの環境の中で協同学習を今後どのように活用していくか、実際の教育現場では学生や職員のレディネスをしっかりとらえて進めることが重要であると実感した

などの意見もありました。

次回の研究会では、みなさんと協定の体験を語りあい、共有できる時間を持ちたいと考えています。

◇第3回のご案内：2月15日(土)13時30分から17時00分まで、愛知県立総合看護専門学校で開催します。第2回・第3回と続いての研究会とはなりますが、「第3回からの参加の方にも理解が深まるようなしかけづくりをします」と水野先生からメッセージをいただいています。多数のご参加を心よりお待ちしております。

◇2024年度の本研究会の企画運営は、代表：大村ゆかり、副代表：プラット貴恵・坂本真希、企画・運営委員：加藤知佳・川堺美香・佐藤奈弓です。

連絡先：協同学習を用いた看護教育研究会 in Aichi (aichi_kyoudou_2024@outlook.jp)

(文責：プラット貴恵・佐藤奈弓)

(大阪地域)

協同学習を用いた看護教育研究会

◇第55回「協同学習を用いた看護教育研究会」を2024年11月23日(土)13時30分～16時30分にオンラインで開催し、23名の参加がありました。今回は、「協同学習の考え方や技法を用いた効果的な振り返りについて考えるーグループ活動の振り返りに焦点をあててー」をテーマに、本研究会の企画・運営委員の小八重和子委員と織田千賀子委員が進行を担当しました。

JASCE

最初に、小八重委員が「振り返りの意義と重要性」についてミニレクチャーを行いました。参考文献として、①ジョンソン、D. W/ ジョンソン、R. T/ ホルベック、E. J 著 石田裕久・梅原巳代子訳『学習の輪 学び合いの協同教育入門』、②杉江修治先生の『協同学習入門：基本の理解と51の工夫』、『協同学習を深める 主体的、協同的で生き方につながる学びの実現』を用いて学び合いました。次に、「グループ活動の振り返りで私が工夫していること」をテーマにグループで各自の実践を発表し合った後、織田委員が「グループ活動の振り返り」について自己の実践報告をしました。その後、「グループ活動の振り返りの課題と解決策」についてグループディスカッションを行い、最後に全体で共有し意見交換をしました。

今回の研究会では、振り返りの意義を改めて確認するとともに、個々の参加者の実践的な視点や工夫点について共有することができました。特に、グループ活動の振り返りの課題や解決策について多様なアイデアが出され、参加者同士が刺激を受ける貴重な機会となりました。アンケート結果からは、研究会の内容が参加者の方々の教育実践に新たな視点や気づきをもたらした、有意義な学びの場となったことが伺えました。今後も、教育活動をさらに深めるきっかけとなるような企画を考えてまいります。(文責：小八重和子・織田千賀子)



◇今年最初の第56回研究会は、1月25日(土)13時30分からグランフロント大阪北館2階のナレッジキャピタル「The Lab」アクティブスタジオで開催いたしました。テーマは「授業の構造化を考える」でした。

連絡先：研究会代表 緒方巧 (t-ogata@baika.ac.jp)

(全地域)

全国看図アプローチ研究会

◇『全国看図アプローチ研究会研究誌』24号を公刊しました。

24号も充実の3論文です。第1論文は高校地学、第2論文は高校物理の実践報告です。これで高校理科4科目(物理・化学・生物・地学)すべての看図アプローチ授業モデルが出揃いました。第3論文は「きょうちゃん」を授業の「出席確認」に活用した実践です。この実践では「出席確認」する主体を、教員から学習者に移すことで、授業の始まりから

主体的学びをスタートさせる画期的な工夫を実現しています。そしてその工夫をサポートしているのが「進化したきょうちゃん」です。3論文とも、発想の発展や発想の転換を楽しめる刺激の内容になっています。

掲載論文▼

1. ChatGPTによる発問を利用した看図アプローチ授業実践－高校地学において火山と私たちの暮らしについて考えるために－(寺田昂世・溝上広樹)

https://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.24_pp.3-14.pdf

2. 高校物理における看図アプローチを活用した授業実践－ゼノンのパラドックスを用いた「瞬間の速度」の学習－(松尾健一・溝上広樹)

https://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.24_pp.15-25.pdf

3. きょうちゃんの歴史 (IV)－広がり続けるきょうちゃんの教育的役割－(石田ゆき)

https://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.24_pp.27-40.pdf

4. 編集後記(鹿内信善)

<https://kanzu-approach.com/journal/kanzu-journal.vol.24-henshukoki.pdf>

連絡先：研究会事務局長 石田ゆき (kanzu.approach.office@gmail.com)